

令和5年度 第11回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和6年1月4日（木） 11時00分から11時45分まで

開催場所：A301-302会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、和泉議会事務局長、秦野教育次長、北澤消防長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局長、澤柳企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。
- ・今回の能登半島地震のことは、我が身のこととして受け止めなければいけない。昨年の地震防災訓練の反省については、全体的には危機管理部で、各災害対応部の動きについては、各部で実施しているが、今回の地震を受け、近い時期に改めて検証して、取るべき対応をしっかりとっておくことは非常に大事なことである。
- ・鳥取県庁に勤めていた時に、鳥取県西部地震を経験した。その時は、幸いにして亡くなる方がいなかったが、それでも多くの倒壊家屋がある状況だった。たまたまその半年前に地震総合防災訓練を震源地に近いところでやっており、そのことが初動において非常に役に立った。
- ・地震があつて、寒さがあつて、雨や雪が降るといふ今の能登半島と同じ状況をどこまで想定するかはあるが、昨年9月の防災訓練の振り返り及び検証を行い、対応を考えておくことは、もし何かあつたときに必ず役に立つ。無いに越したことはないが、きちんと備えておくこと。
- ・自治基本条例を学び直すことや、公民館活動についてもう一度力を入れてやり直すことを昨年の定例会で申し上げたが、これは今やっておかないといけないと改めて思った。
- ・また、今回の地震の様子を見て、大きな地震が発生した際に、顔の見える関係でお互いに助け合えるということは心理的な大きな支えになるはず。地域がバラバラの状態での時を迎えるのと地域活動ができていける状態に向かえるのでは全然違う。今年は地域防災力を改めて組み直す年にしたい。
- ・職員の皆さんの心と体のケアを上司として、部局長にはぜひお祈りをしたい。心や体を痛めている人へのケアばかりではなく、日頃の風通しの良い職場づくりや男性の育休といった職員の福利厚生や職場の雰囲気を上司としてマネジメントすることも大事な仕事である。

＜副市長＞

- ・明けましておめでとうございます。個人的には非常に穏やかな正月を新しい家で迎えて快適にしていたが、頭を殴られるほど大きな地震があつた。市長がおっしゃったように、本当に他人事とせず、しっかりと取り組んでいく必要があると感じた。
- ・令和6年は飯田市にとって節目の年になる。市長選もあるが、後期基本計画や南信州広域連合の次の基本構想、基本計画も含めて、少し長いスパンで物事を整理して、見通しをつける必要がある年である。皆さんの力や知恵を出し合っていただきたい。

＜教育長＞

- ・本年もよろしくお祈りいたします。
- ・新年早々、災害の報道を見て気になるのは、避難所になっているところが公民館や学校の体育館である点であり、普段からどういうことを考えていかないといけないのかと改めて考えた。
- ・今回は休み中に地震が発生したため、学校等の避難はなかったが、もし学校があつた場合には、放課後あたりの時間帯で日頃の避難訓練の成果が出たか気になった。市長も申された通り、我が身のこととして考えないといけないと思う。
- ・東日本大震災の時には、学校での授業が行われている時間帯に地震が発生したため、教員の誘導のミスによって多くの子どもたちが亡くなってしまった。災害のときには、非常に難しい判断が学校にも求められると改めて感じている。

- ・災害対応以外の話になるが、飯田市の現状をみると、教員不足が飯田下伊那の大きな課題になっている。昨年一昨年に比べると、かなり正規の教員の席が埋まっていない状況がある。このままいくと、人件費を市町村が負担する教員の席が埋まらないのではないかとという危惧もされている状況である。各部局等の長の中で親戚やお知り合いで免許を持っていて時間がある方がいれば、ぜひご紹介をいただけるとありがたい。
- ・教育委員会の課題がたくさんあるが、地道にひとつひとつじっくりと取り組んでいきたい。

2 だるまの目入れ式

3 その他、連絡事項

4 閉会